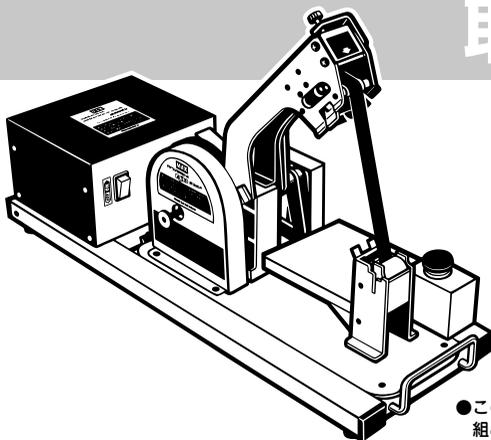


マックス野菜結束機

おひまる 用パワーユニット HT-PU《AN》

取扱説明書



●この絵はHT-PU (AN) にHT-M2を
組み付けた絵です。

警告

- 使用前に必ず取扱説明書を読む。
- 感電事故防止の為、アース線を必ず接地（アース）する。
- 屋外、雨の中や水のかかる場所、湿気の多い場所では絶対に使用しない。
- 電源は100V専用コンセントを必ず使用する。
- テープ装着・交換の時は必ず電源スイッチを「OFF」にして行なう。
- 電源スイッチ「ON」の時はテープつかみ部には手を絶対に置かない。
- 電源スイッチ「ON」の時はサポート板ユニットとアームユニット（L・R）の間に手を絶対に入れない。
- 電源スイッチ「ON」の時はリンクカバーの中に手を絶対に入れない。
- 揮発性可燃物のそばで絶対に使用しない。
- 濡れた手で絶対に機械に触れない。
- 使用後は電源スイッチを「OFF」にしてプラグをコンセントから必ず抜く。
- 異常を感じたら絶対に使用しない。

- この取扱説明書は常時内容が確認できるよう保管してください。
- 本機の仕様は機能向上のため、予告なしに変更することがあります。

MAX®

このたびは、マックス野菜結束機おびまる用パワーユニットHT-PU（AN）をお買い上げいただきまして誠にありがとうございます。本機の取扱いにあたって、この取扱説明書を最後までよくお読みください。使用上の注意事項、使用方法、能力などについて十分ご理解の上、安全に適切にご使用くださるようお願いいたします。

■表示について



警告

この表示は、取扱いを誤った場合に、使用者が死亡または重傷を負う可能性が想定される場合を表しています。



注意

この表示は取扱いを誤った場合に、使用者が傷害を負う危険が想定される場合および物的損害のみの発生が想定される場合を表しています。また、取扱いを誤った場合には、機械本来の性能を発揮しないばかりでなく本機の損傷につながる事が想定される場合を表しています。

■絵表示について



この記号は「気を付けるべきこと」を意味しています。この記号の中や近くの表示は具体的な注意内容です。



禁止

この記号は「してはいけないこと」を意味しています。この記号の中や近くの表示は具体的な禁止内容です。



この記号は「しなければいけないこと」を意味しています。この記号の中や近くの表示は具体的な指示内容です。

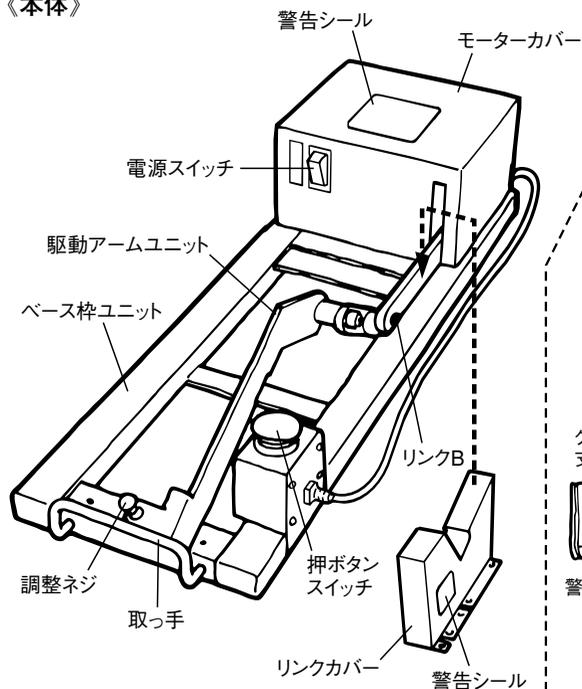
目 次

1. 各部の名称	1
2. 安全作業のために	2
3. 仕様及び付属品	9
4. 組立手順	10
5. 使用方法	19
6. 故障と思う前に	22
7. 性能を維持するために	23

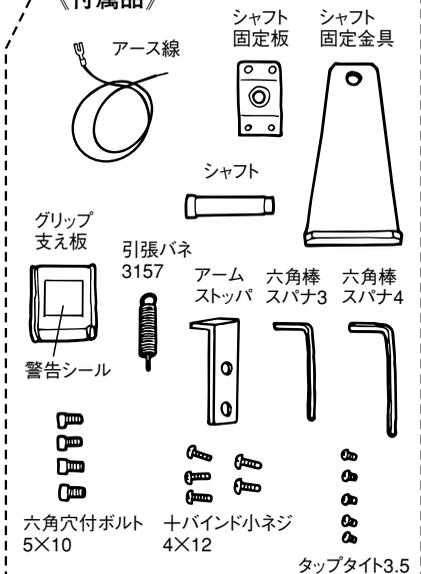
全国販売拠点、サービス拠点一覧

1 各部の名称

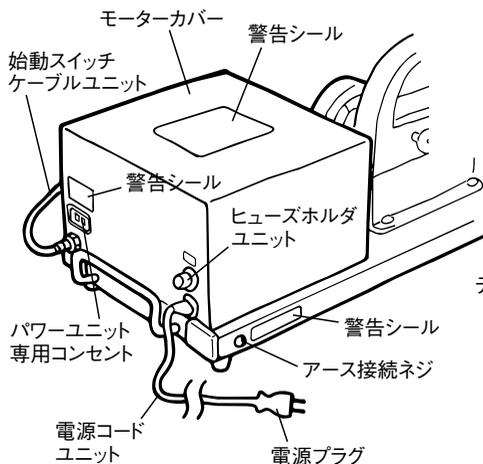
《本体》



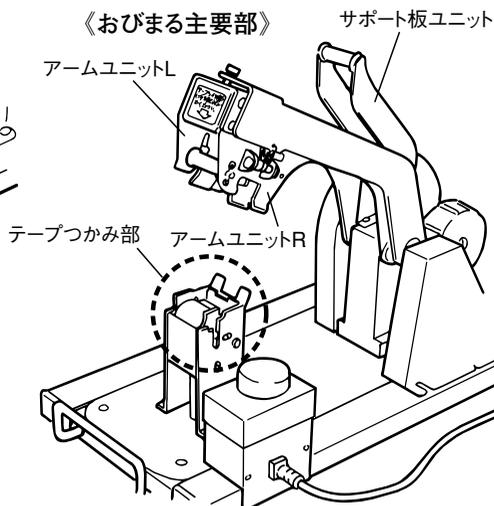
《付属品》



《後方》



《おびまる主要部》



2 ▲安全作業のために

本機は、野菜を結束することを目的とした、おびまる〈HT-M2〉を電動にて使用するためのユニットです。指定以外の用途、使用方法は重大な事故につながる恐れがあります。この取扱説明書の記載事項を厳守してください。作業関係者以外、特に子供は作業場所に近づけないでください。また、本機に触らせないでください。

使用前

警告

- ①屋外、雨の中や水のかかる場所、湿気が多い場所では絶対使用しない。

屋外、雨の中、水のかかる場所、湿気が多い場所、湿った場所では絶対に使用・放置しないでください。また、機械に水を絶対にかけないでください。感電事故やモータの絶縁不良につながり、危険です。



- ②感電事故防止の為、アース端子を必ず接地（アース）する。

アース線をガス管等に取付けることは危険ですので、絶対に接続しないでください。

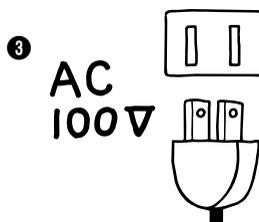
- ※アースの埋め込みやアース線を接続するような工事は電気工事士の資格が必要です。最寄りの電気工事店にご相談してください。また接地と共に漏電しゃ断器の設置された電源に接続されることをおすすめします。

- ※本機へのアース線の取り付けについてはP19①を参照ください。



- ③電源は100V専用コンセントを必ず使用する。

電源は必ずAC100V専用コンセントを使用してください。指定電圧以外の使用は故障の原因だけでなく、発火、発熱の危険性がありますので絶対にしないでください。



2 ▲ 安全作業のために

▲ 警告

- ④ 電源に昇圧器などのトランス類と発電機は絶対に使用しない。

故障の原因や焼損の原因になりますので絶対にしないでください。



- ⑤ 電源コードは大切に扱う。

電源コードを引っ張ってコンセントから引き抜いたりすると、電源コードを傷め、断線、短絡（ショート）の原因になります。また電源コードが刃物類や高熱のもの、油、グリスなどに触れないように注意してください。電源コードが破損した場合は修理に出してください。



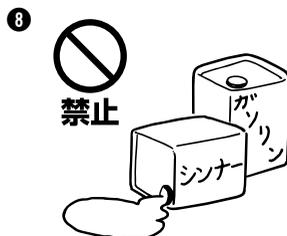
- ⑥ 電源コードの脱着は必ず電源スイッチを「OFF」にして行なう。

- ⑦ 火気には絶対に近づけない。



- ⑧ 揮発性可燃物のそばで絶対に使用しない。

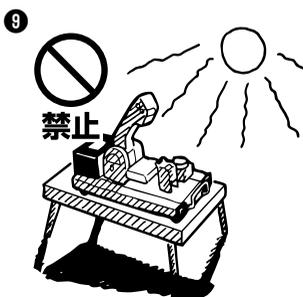
ガソリン、シンナー、ガス、塗料、接着剤などのそばでの使用は、引火または爆発の恐れがあるので絶対に使用しないでください。



▲ 警告

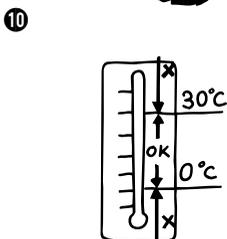
⑨ 直射日光を避け、必ず風通しのよい場所で使用する。

直射日光の下で使用すると高温になり、焼損や火災の危険性がありますので絶対にしないでください。



⑩ 周囲温度が0℃～30℃の範囲で必ず使用する。

周囲温度が0℃より低い場合、また30℃を超える場合は十分な作動が出来ません。



⑪ 機械は必ず安定した台、テーブルに置く。

機械の落下による事故や機械損傷を避けるため、機械は安定した作業台、テーブル、床に置いて使用してください。



⑫ 作業環境に応じた服を必ず着用する。

作業環境に応じて、作業のしやすい服を着用してください。



2 ▲安全作業のために

▲警告

⑬作業場所を常に整理する。

作業場所が乱雑だとつまづくなどして思わぬ事故の原因となります。作業場所は常に整理整頓して作業を行ってください。

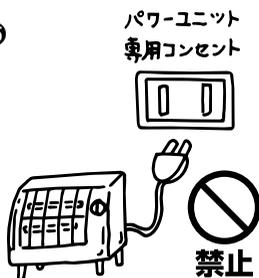


⑭テープ装着・交換の時は、必ず電源スイッチを「OFF」にして行なう。



⑮パワーユニット専用コンセントで、他の電気機器を絶対に使用しない。

パワーユニット専用コンセントは、パワーユニットを連結して使うためのコンセントですので、他の電気機器用に絶対に使用しないでください。また連結は必ず1台のみの使用で行ってください。



使用中

▲ 警告

① 異常を感じたら絶対に使用しない。

作業中に本機の調子が悪かったり、異常を感じたら、ただちに電源スイッチを切り（OFFにして）、電源プラグを抜いて使用をやめ、お買い求めの販売店、又はマックスサービス㈱に点検・修理に出してください。



② プラグは必ずコンセントの元まで入れて、電源スイッチを入れる。



③ 濡れた手で絶対に触れない。

濡れた手で電源プラグ等を持つと、感電する恐れがありますので絶対にしないでください。



④ 電源スイッチを「ON」の時は、回転部および機械摺動部には絶対に手を近づけない。

リンク部などの回転部やアームユニットなどの機械摺動部に手が触れますと挟まれたり、巻き込まれたりして怪我をすることがありますので、絶対に手を近づけないでください。



2 ▲安全作業のために

▲警告

- ⑤電源スイッチ「ON」の時は、テープつかみ部には絶対に手を置かない。

テープつかみ部に手が挟まれると怪我をすることがありますので、絶対に手を置かないでください。



- ⑥電源スイッチ「ON」の時は、サポート板ユニットとアームユニット（L・R）の間に手を絶対に入れない。
- サポート板ユニットとアームユニットの間に手が挟まれると怪我をすることがありますので、絶対に手を入れないでください。



- ⑦休憩、食事等で機械から離れる時は、必ず電源スイッチを「OFF」にする。

短時間機械から離れる時も、必ず電源スイッチを「OFF」にしてください。

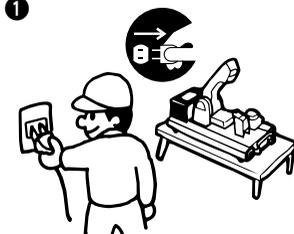


使用後

▲ 警告

- ① 使用後は、必ず電源スイッチを「OFF」にし、コンセントからプラグを抜く。

使用後は、電源スイッチが「OFF」になっていることを確かめ、プラグを持ってコンセントを抜いてください。



- ② 本機を大切に手入れする。

より安全に性能を発揮させるため、作業後は必ず掃除を行い、野菜クズ、ホコリ、ゴミを取り除き、乾いた布で拭いてください。濡れた布や、シンナー、ベンジンなど揮発性のものは絶対に使わないでください。



- ③ 本機を絶対に分解しない。

万一故障した時は、お買い求めの販売店、又はマックスサービス(株)に点検・修理に出してください。



- ④ 本機を絶対に改造しない。

本機を改造すると、本来の性能が発揮されないばかりでなく安全性が損なわれますので、絶対に改造はしないでください。



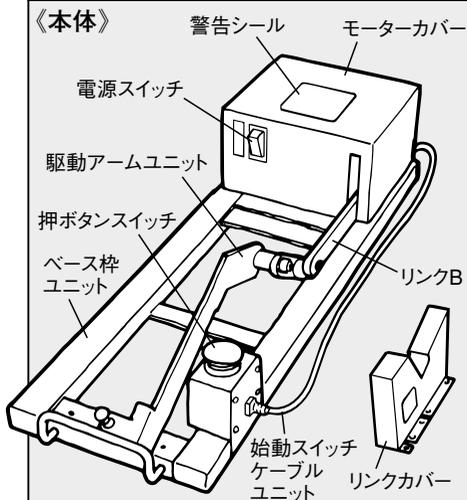
3

仕様及び付属品

商 品 名	マックス野菜結束機おびまる用パワーユニット
商 品 記 号	HT-PU (AN)
寸 法	長さ 720 × 巾 236 × 高さ 420 mm (HT-M2セット時)
質 量	10kg (HT-M2セット時17kg)
電 源	AC100V、50/60Hz
消 費 電 力	最大55W
ヒ ュ ー ズ	1A (ガラス管)
電 源 コ ー ド	3m
結 束 速 さ	1.2秒 (50Hz)、1.0秒 (60Hz)
付 属 品	シャフト固定金具、シャフト、シャフト固定板、グリップ支え板、アームストッパ、引張バネ3157、十バインド小ネジ4×12 (5ヶ)、タッパタイト3.5 (5ヶ)、六角穴付ボルト5×10 (4ヶ)、六角棒スパナ3、六角棒スパナ4、アース線

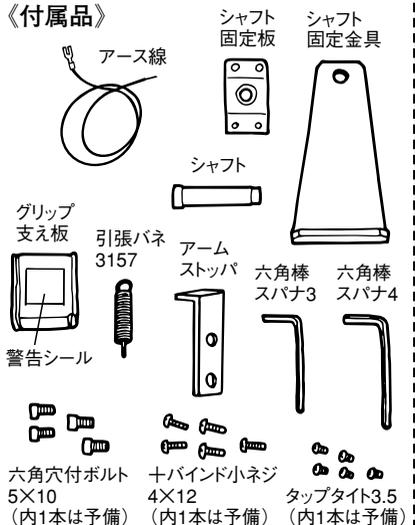
4 組立手順

パワーユニット



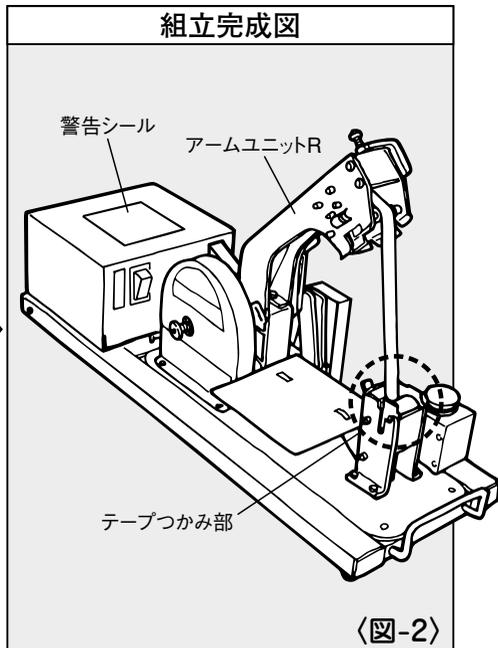
組立

《付属品》



〈図-1〉

組立完成図



〈図-2〉

- 梱包ケースの中には左記付属部品が入っていますので、開梱しましたら確認してください。
- 組立手順は、上記組立完成図を参照して行ってください。

⚠ 警告



● コンセントから電源プラグを抜いて作業を行なう。

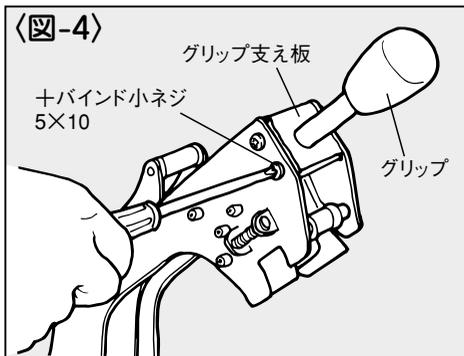
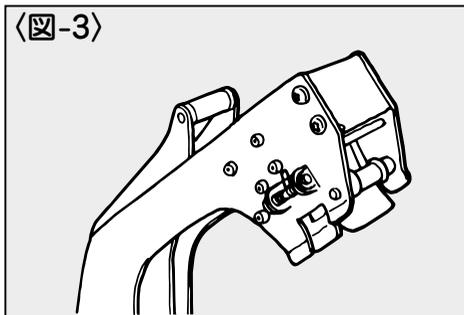
1) HT-M2の下準備

HT-M2をパワーユニットHT-PU (AN) に組み込む前にまず、HT-M2の下準備をお願いします。

①グリップ取りはずし

グリップ支え板を固定している+バインド小ネジ5×10(4本)をはずし、グリップ支え板ごとグリップ部分をはずします。次に付属のグリップ支え板を取り付けます。

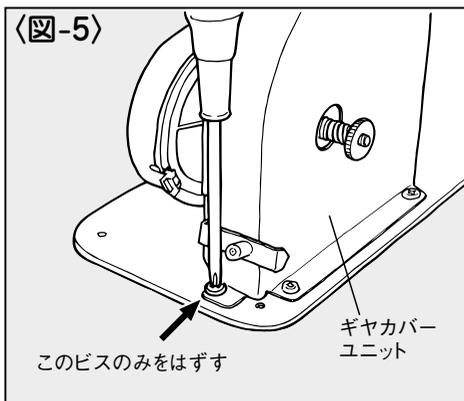
〈図-3〉 〈図-4〉



②ギヤカバーユニット取付ビスの取りはずし

ギヤカバーユニットを取り付けている+バインド小ネジ5×10の後の1本を取りはずしておきます。

〈図-5〉

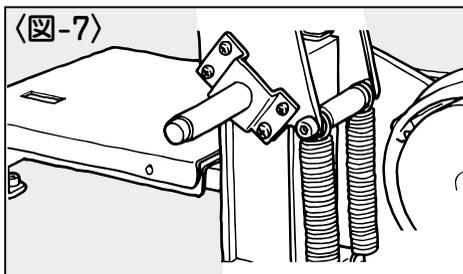
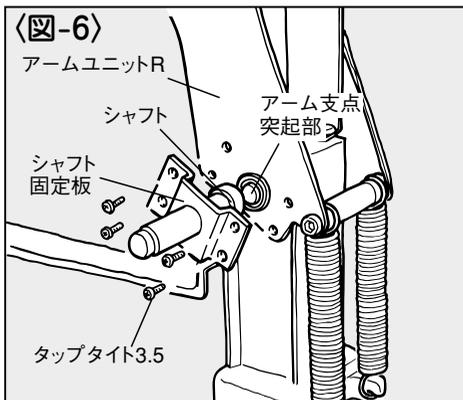


③シャフト取り付け

シャフト固定板をシャフトに差し込み、HT-M2のアームの支点の突起部にシャフトの凹部を当て、タップタイト3.5（4本）でHT-M2のアームユニットRに固定します。〈図-6〉〈図-7〉

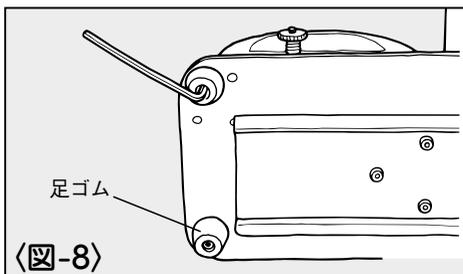
⚠ 注意

- シャフト固定板は方向性がありますので、アームユニットRの4つの下穴と合わせてみて、合う向きで取り付けを行ってください。
- ネジ込みの際、強く締め過ぎますと、ネジ山がつぶれる恐れがありますので適宜な力で締め込んでください。



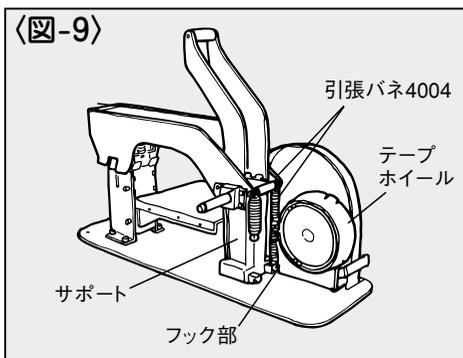
④足ゴムの取りはずし

付属の六角棒スパナ4で足ゴム4ヶを取りはずします。〈図-8〉



⑤引張バネ4004のはずし

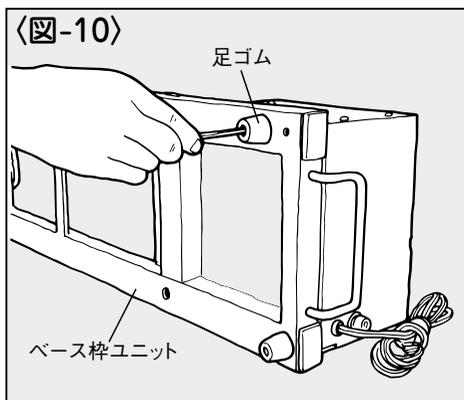
引張バネ4004のシャフト側のみをはずしておきます。〈図-9〉



2) パワーユニットへのHT-M2の組み込み

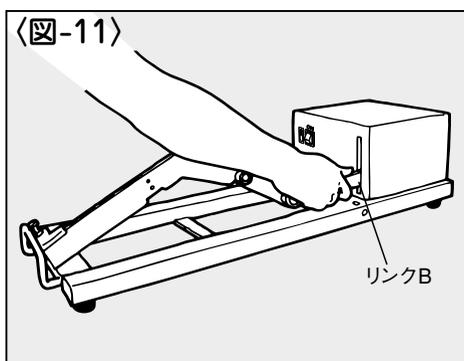
①足ゴムの取付け

〈図-8〉で、HT-M2より取りはずしました足ゴムをパワーユニットのベース枠ユニットの裏側へ取り付けます。〈図-10〉

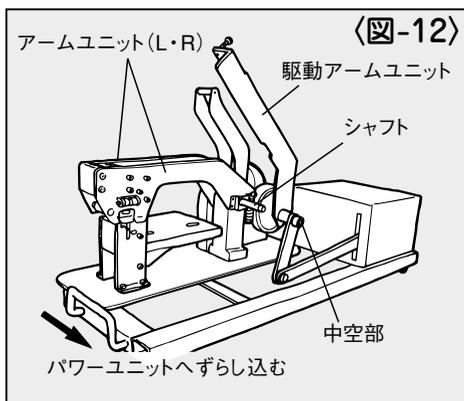


②パワーユニットへのHT-M2の設置

リンクBが引っ込んでいる場合がありますので、まず、リンクBを手前に引き出してください。〈図-11〉



次にHT-M2に〈図-6・7〉で組付けたシャフト部分を駆動アームユニットの中空部に差し込みながら、HT-M2を横からずらし込む様にパワーユニットに乗せます。〈図-12〉



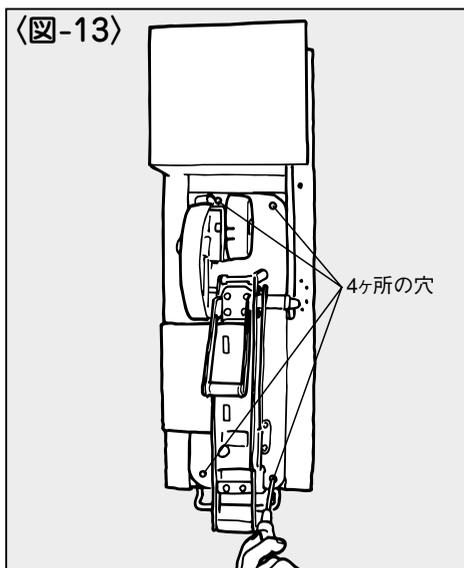
⚠ 注意

- HT-M2をパワーユニットに乗せる際、HT-M2のアームユニット(L・R)を下げた状態にし、逆にパワーユニットの駆動アームユニットは上がった状態にして設置してください。

③HT-M2のパワーユニットへの固定

HT-M2の足ゴムの取り付けに付いたベース穴3ヶと〈図-5〉で取りはずしたギヤカバーユニットの取り付けネジの穴と計4ヶの穴を使用し、パワーユニットへ付属の+パインド小ネジ4×12で固定します。

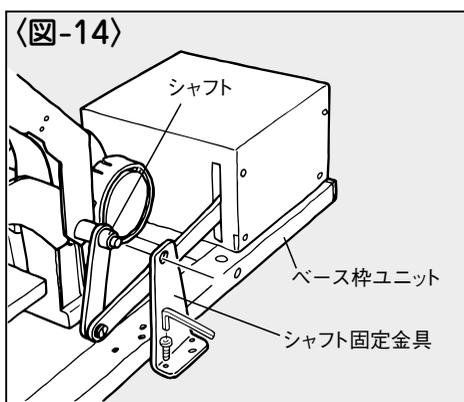
〈図-13〉



④シャフト固定金具の取付け

〈図-12〉で組付けましたシャフトにシャフト固定金具を差し込みます。そして付属の六角穴付ボルト5×10（3本）でシャフト固定金具をベース枠ユニットへ固定します。

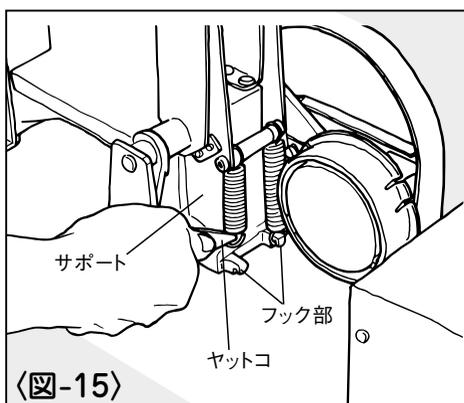
〈図-14〉



⑤引張バネのフックへの引掛け

引張バネをサポートのフック部にヤットコ（HT-M2の付属工具）を使い、引掛けます。

〈図-15〉



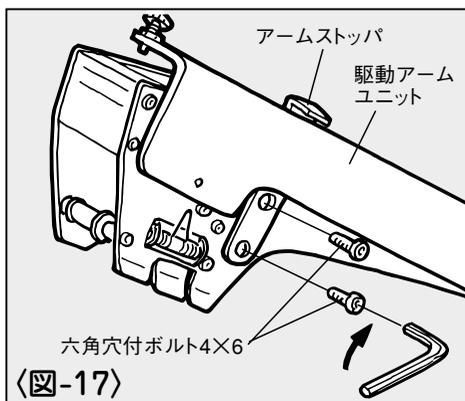
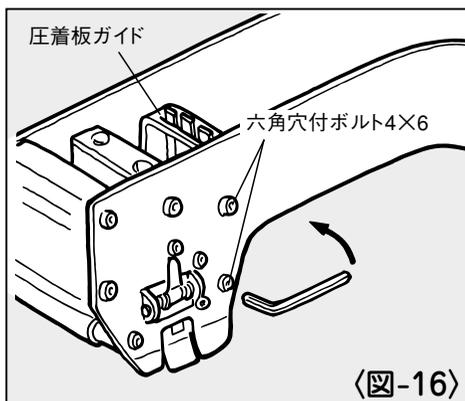
〈図-15〉

⑥アームストップの取り付け

HT-M2の圧着板ガイドを止めている六角穴付ボルト4×6の駆動アームユニット側のみ2本を付属の六角棒スパナ3で取りはずします。

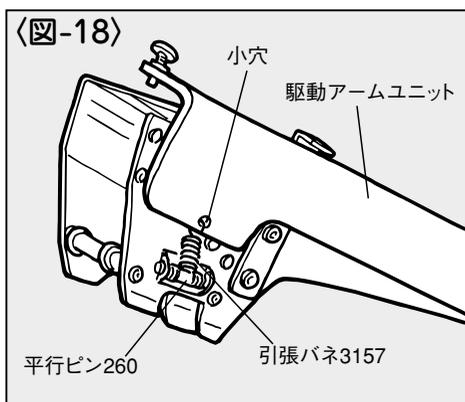
次に、その取りはずした穴を利用し、アームストップを取り付けます。

〈図-16〉 〈図-17〉



⑦引張バネ3157の取り付け

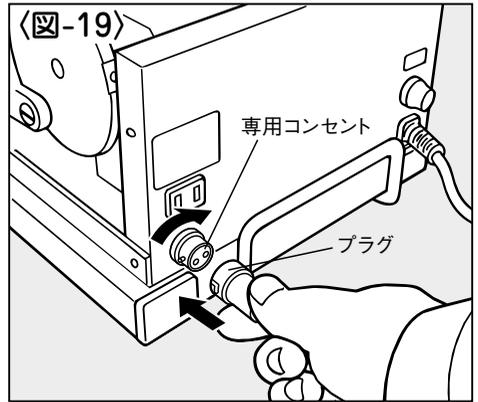
引張バネ3157を駆動アームユニットの小穴とHT-M2の平行ピン260の中心部を利用し、引っ掛けます。 〈図-18〉



**⑧ 押ボタンスイッチ（始動スイッチケーブル
ルユニット）の取り付け**

始動スイッチケーブルユニット先端のプラグを本体側の専用コンセントに差し込んで、右に回してロックしてください。

〈図-19〉



警告



●コンセントから電源プラグを抜いて作業を行なう。

3) 調整

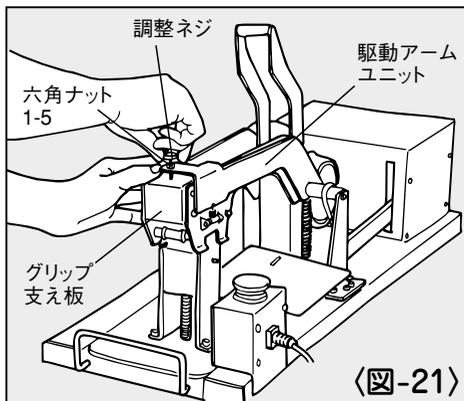
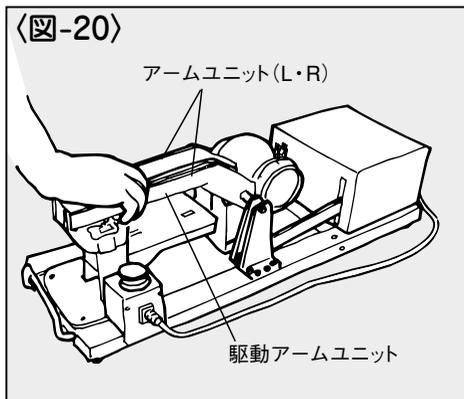
組付けが終了しましたら調整を行なってください。

まず駆動アームユニットの先端に付いている調整ネジ部の六角ナット1-5を緩めておいてください。

次にHT-M2の駆動アームユニットを押し下げた状態にし、更に左手でHT-M2のアームユニット(L・R)を最後まで押し下げます。そこで調整ネジの先端がHT-M2のグリップ支え板に当たるまで調整ネジを回します。調整ネジの位置が決まりましたら六角ナット1-5でロックしてください。一度調整しましたらテープを装填し、テストをしてください。(テストは後記使用方法を参照してください)

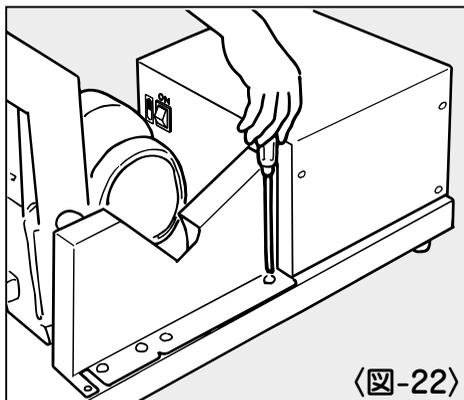
テープの切れが悪い時は更に調整ネジを締め込んでください。また、つかみローラーを傷付ける様でしたら、調整ネジを緩めてください。テストしてOKでしたら再度六角ナット1-5でロックし固定してください。

〈図-20〉 〈図-21〉



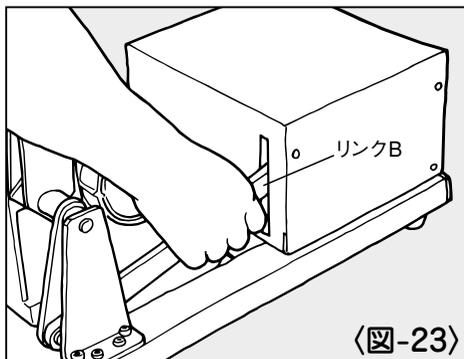
4) リンクカバーの取り付け

調整が完了したらリンクBにリンクカバーを+バインドネジ5×10で本体に取り付けてください。
〈図-22〉



⚠ 注意

- 調整ネジをネジ込み過ぎますとストロークオーバーとなり、HT-M2のつかみローラーを傷付れたり、耐久性も悪くなります。また、調整ネジのネジ込みが不足ですと、最後まで行かないでテープが切れないという現象が出ます。その点を注意し調整を行なってください。
- 駆動アームユニットが手で動きにくい時はリンクBを持ち上げる様にして動かしてください。 〈図-23〉



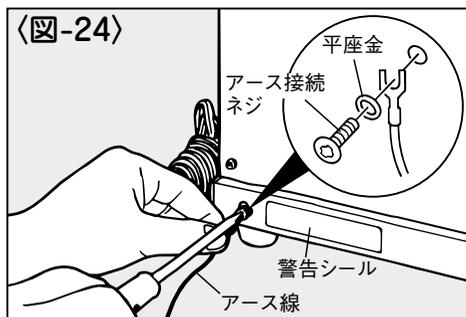
5 使用方法

電源プラグがコンセントに差し込まれていないこと、電源スイッチが「OFF」になっていることを確認してください。

①アース線の取り付け

作業場所が決まりましたら、アースを取り付けてください。

まず、アース接続ネジ（十ナベネジ5×10）と平座金（特平座金5×12）を本体より外し、図の順番（座金と本機の間）にアースコードを入れる）でアースコードを取り付け、もう一方のコードの端を地面に接地してください。 〈図-24〉



※アースの埋め込みやアース線を接続するような工事は電気工事士の資格が必要です。最寄りの電気工事店にご相談してください。また接地と共に漏電しゃ断器の設置された電源に接続されることをおすすめします。

⚠ 警告

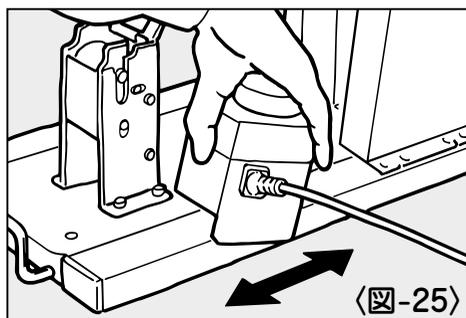


●感電事故防止の為、アース線を必ず接地（アース）する。

②押ボタンスイッチの位置決め

押ボタンスイッチの裏がマグネットになっておりますので、コードの届く範囲内で任意の位置に設定してください。

〈図-25〉



③テープの装着

テープの装着はHT-M2の取扱説明書のテープの入れ方の所を参照してください。テープを引き出してきましたら、手に持ったテープの先端をスタンドの内側に貼り付けます。 〈図-26〉

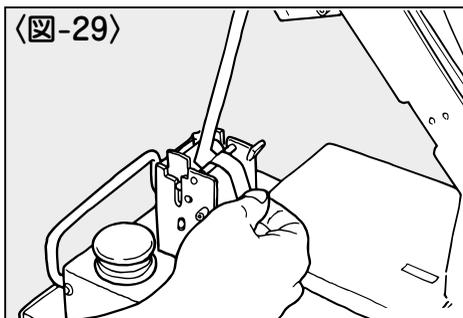
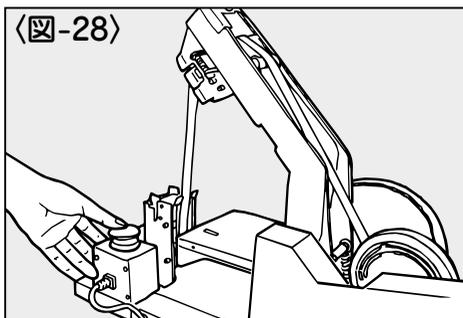
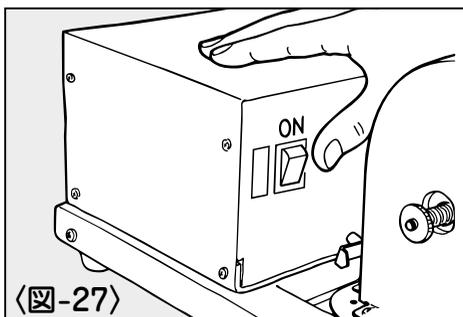
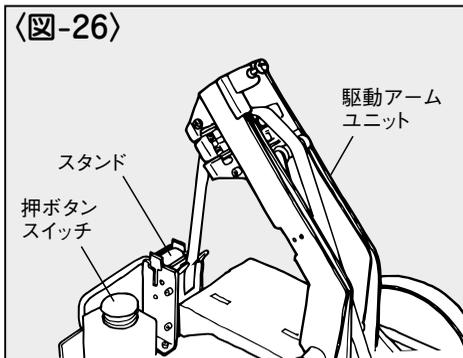
⚠ 警告

- テープ装着時は必ず電源スイッチを「OFF」にして行なう。

次に電源プラグをコンセントに差し込み、電源スイッチを「ON」にしてください。電源スイッチが点灯します。 〈図-27〉

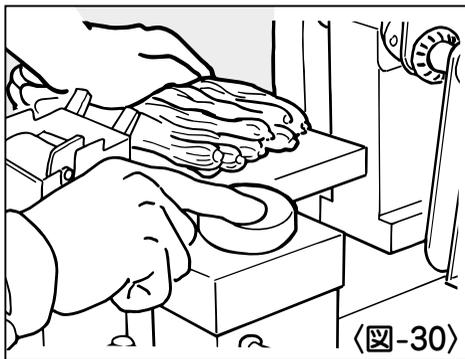
押ボタンスイッチを押し空結束させ、テープをテープつかみ部につかませます。後は、スタンドの内側に残ったテープの切れ端を除けば、これで準備完了です。

〈図-28〉 〈図-29〉



④ 操作の仕方

結束物を入れ、あとは押ボタンスイッチを押せば結束できます。 〈図-30〉

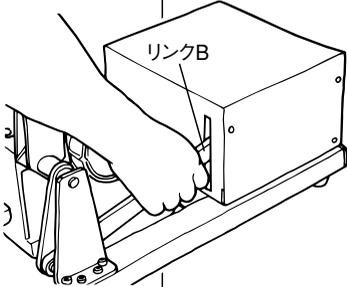


6 故障と思う前に

⚠ 警告



●電源スイッチを切り（OFFにして）、コンセントから電源プラグを必ず抜いて作業を行なう。

起きている現象	点検内容	対応内容
<p>1. 正規の操作を行なっても機械が作動しない。</p> 	<p>電源スイッチ部が点灯していますか</p> <p>①点灯していない。</p> <p>●電源プラグがコンセントにしっかり差し込まれていますか</p> <p>●ヒューズは切れていませんか</p> <p>②点灯している</p>	<p>→電源プラグをコンセントに差し込み直してください。</p> <p>→ヒューズ（ガラス管ヒューズ1A）を交換してください。</p> <p>→駆動アームユニットの停止位置によっては、作動しない場所があります。電源プラグを抜き、リンクカバーをはずし、リンクBを手で持ち上げる様にして駆動アームを一番下に降ろした状態にしてください。</p> <p>次にリンクカバーを付け、電源を入れ、電源スイッチを「ON」にして、押ボタンスイッチを押してください。これでアームは復帰し、後は正常な作動をします。</p> <p>上記操作を行なっても機械が作動しない場合があります。これは、モータに内蔵されている焼損防止回路が働いたためです。</p> <p>モータ内の温度が下がれば作動しますので、モータ内の温度が下がるまで（約10分間）お待ちください。</p>
<p>2. 本機作動中に電源コードが抜けたり、本機に物がはさまり、作動途中で停止した時</p>		<p>ただちに電源スイッチを「OFF」にしてください。そしてはさまった物を取り除き、電源スイッチを「ON」にして、押ボタンスイッチを押してください。これでアームは復帰します。</p> <p>この操作を行なってもアームが復帰しない時は、一旦電源を「OFF」にして、上図の様に駆動アームの位置をずらし、上記の操作をくり返し行なってください。</p>
<p>3. テープが切れはない</p>	<p>HT-M2が最後まで降りているか</p> <p>①最後まで降りている</p> <p>②最後まで降りていない</p>	<p>→HT-M2のカッターを交換してください。</p> <p>→駆動アームユニットの調整ネジを調整し、HT-M2のアームユニット（L・R）が最後まで降りる様にしてください。</p>

⚠ 警告

●機械の異常を感じたら使用を中止し、点検・修理に出すこと。

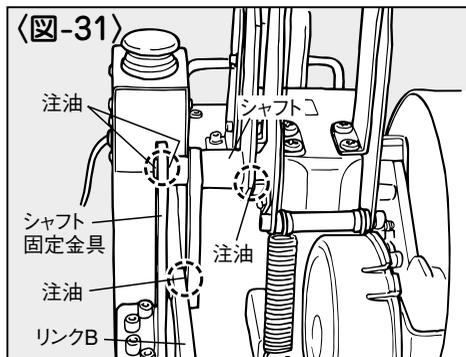
7 性能を維持するために

①注油する。

本機の性能を維持するために右図の場所に、時々注油してください。

油はミシン油またはシリコンオイルをお使いください。なおHT-M2の注油場所についてはHT-M2の取扱説明書を参照してください。

〈図-31〉



②定期的に点検する。

本機の性能を維持するために清掃、点検を定期的に行ってください。点検はお買い求めの販売店、又はマックスサービス(株)にお申しつけください。

— MEMO —

A series of 20 horizontal dashed lines for writing.



本社・営業本部 〒103-8502 中央区日本橋箱崎町6-6 TEL(03)3669-8121(代)

支店・営業所

札幌支店	〒060-0041	札幌市中央区大通東6-12-8	TEL(011)261-7141(代)
仙台支店	〒984-0002	仙台市若林区卸町東2-1-29	TEL(022)236-4121(代)
盛岡営業所	〒020-0824	盛岡市東安庭2-10-3	TEL(019)621-3541(代)
新潟支店	〒955-0081	三条市東裏館2-14-28	TEL(0256)34-2112(代)
東京支店	〒103-8502	中央区日本橋箱崎町6-6	TEL(03)3669-8118(代)
水戸営業所	〒310-0043	水戸市松ヶ丘2-3-27	TEL(029)255-3761(代)
群馬営業所	〒371-0844	前橋市古市町233-5	TEL(027)210-7755(代)
長野営業所	〒399-0033	松本市笹賀8155	TEL(0263)26-4377(代)
柏営業所	〒277-0871	柏市若柴297-12	TEL(04)7132-1500(代)
千葉営業所	〒284-0001	四街道市大日1870-1	TEL(043)422-7400(代)
名古屋支店	〒462-0819	名古屋北区平安2-4-87	TEL(052)918-8619(代)
静岡岡屋支店	〒422-8036	静岡市駿河区敷地1-3-26	TEL(054)237-6116(代)
大阪支店	〒553-0004	大阪市福島区玉川1-3-18	TEL(06)6444-2035(代)
大津滋営業所	〒612-8414	京都市伏見区竹田段ノ川原町9	TEL(075)645-5061(代)
神戸営業所	〒650-0017	神戸市中央区楠町6-2-4	TEL(078)367-1580(代)
広島支店	〒733-0035	広島市西区南観音7-11-24	TEL(082)291-6331(代)
福岡支店	〒812-0006	福岡市博多区上牟田1-5-1	TEL(092)411-5416(代)
南九州営業所	〒891-0115	鹿児島市東開町3-24	TEL(099)269-5347(代)

販売関係会社

埼玉マックス(株)	〒331-0823	さいたま市北区日進町3-421	TEL(048)651-5341(代)
横浜マックス(株)	〒241-0822	横浜市旭区さちが丘7-6	TEL(045)364-5661(代)
多摩営業所	〒190-0022	立川市錦町5-17-19	TEL(042)528-3051(代)
金沢マックス(株)	〒921-8061	金沢市森戸2-15	TEL(076)240-1873(代)
岡山マックス(株)	〒700-0971	岡山市野田3-23-28	TEL(086)246-9516(代)
四国マックス(株)	〒761-8056	高松市上天神町761-3	TEL(087)866-5599(代)

マックスエンジニアリング&サービスファクトリー(株)

本社・高崎サービスステーション	〒370-0031	高崎市上大類町412	TEL(027)350-7820(代)
埼玉サービスステーション	〒331-0823	さいたま市北区日進町3-421	TEL(048)667-6448(代)
札幌サービスステーション	〒060-0041	札幌市中央区大通東6-12-8	TEL(011)231-6487(代)
仙台サービスステーション	〒984-0002	仙台市若林区卸町東2-1-29	TEL(022)237-0778(代)
名古屋サービスステーション	〒462-0819	名古屋北区平安2-4-87	TEL(052)918-8624(代)
大阪サービスステーション	〒553-0004	大阪市福島区玉川1-3-18	TEL(06)6446-0815(代)
広島サービスステーション	〒733-0035	広島市西区南観音7-11-24	TEL(082)291-5670(代)
福岡サービスステーション	〒812-0006	福岡市博多区上牟田1-5-1	TEL(092)451-6430(代)

●住所、電話番号などは都合により変更になる場合があります。

●マックスお客様ご相談ダイヤル(無料) 0120-228-358

月～金曜日 午前9時～午後6時

『ナンバーディスプレイ』を利用しています。